

## 1 作成するマクロの確認

「納品日」を入力すると、「請求書発行日」と「支払期限」に日付を代入するマクロを作成しましょう。

「請求書発行日」には「納品日」と同じ日付、「支払期限」には「請求書発行日」の翌月末日の日付を代入します。

商品コード	商品名	終	粗利	数量	小計
00049	パスタ鍋(大)		¥1,940	2	¥9,000
00050	パスタ鍋(中)		¥1,460	4	¥9,600

## 2 日付を代入するマクロの作成

次のように動作するマクロを作成しましょう。

「請求書発行日」テキストボックスに、「納品日」テキストボックスの日付を代入する  
「支払期限」テキストボックスに、「請求書発行日」の翌月末日の日付を代入する

## 1 マクロの作成

マクロ「M売上傳票」を新しく作成しましょう。

- ①《作成》タブを選択します。
  - ②《マクロとコード》グループの (マクロ) をクリックします。
  - ③ の をクリックし、一覧から《サブマクロ》を選択します。
  - ④《サブマクロ》に「日付の代入」と入力します。
  - ⑤《デザイン》タブを選択します。
  - ⑥《表示/非表示》グループの (すべてのアクションを表示) をクリックします。
  - ⑦《サブマクロ》の (新しいアクションの追加) の をクリックし、一覧から《値の代入》を選択します。
  - ⑧《値の代入》の《アイテム》に「請求書発行日」と入力します。
- ※マクロを保存して閉じたあとに開くと、「請求書発行日」と表示されます。

⑨《値の代入》の《式》に「納品日」と入力します。

※マクロを保存して閉じたあとに開くと、「[納品日]」と表示されます。



⑩《サブマクロ》の「新しいアクションの追加」の▼をクリックし、一覧から《値の代入》を選択します。

⑪《値の代入》の《アイテム》に「支払期限」と入力します。

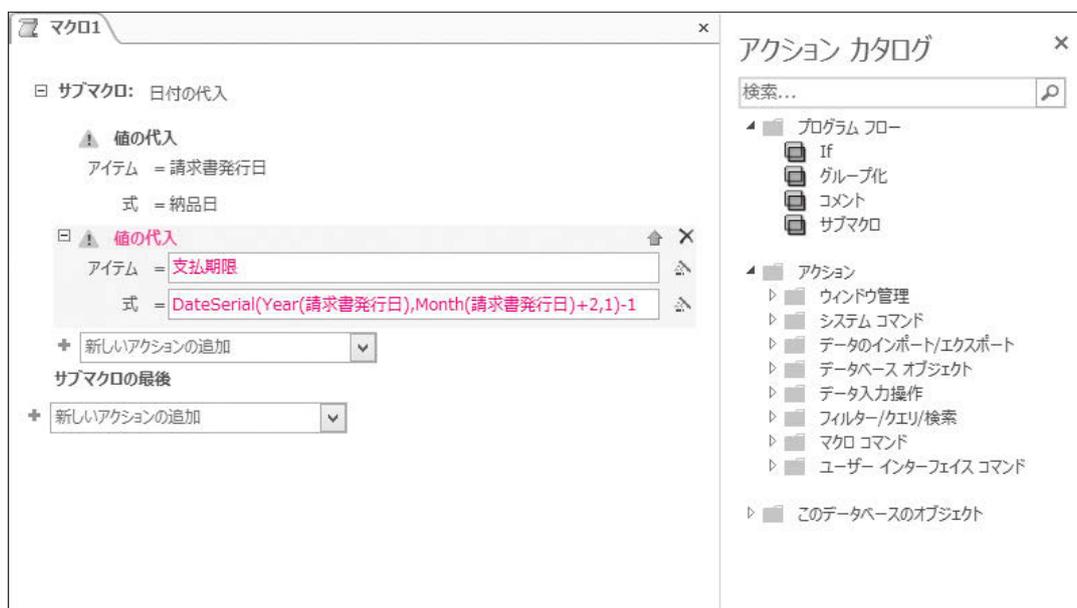
※マクロを保存して閉じたあとに開くと、「[支払期限]」と表示されます。

⑫《値の代入》の《式》に「DateSerial (Year (請求書発行日),Month (請求書発行日) +2,1) -1」と入力します。

※英数字と記号は半角で入力します。

※マクロを保存して閉じたあとに開くと、「DateSerial (Year ([請求書発行日]),Month ([請求書発行日]) +2,1) -1」と表示されます。

※翌々月の1日から1日を引いています。



⑬クイックアクセスツールバーの (上書き保存)をクリックします。

⑭《マクロ名》に「M売上傳票」と入力します。

⑮《OK》をクリックします。

※マクロを閉じておきましょう。

1

2

3

4

5

6

7

総合問題

解答

索引